令和5年度 No.2

駒岡小学校だより

５月号

関わりの中で育つ

校長　岸田 薫

校庭の木々の緑とその後ろに広がる青空が、見事なコントラストを見せ、気持ちのよい季節がやってきたことを感じさせてくれます。校庭や校舎を囲む木々は、大地にしっかりと根をはって大きく成長し、子どもたちを見守っています。

さて、本号の中面にもあるように、4月21日に、校庭に全校が集まって、1年生を迎える会を行いました。ここ数年は画面越しでの対面でしたが、久しぶりの「直接対面」が叶いました。一人ひとりの表情や声、人のぬくもり、雰囲気、一体感などから伝わるものの大きさ、大切さを感じ、コロナ禍で失われていた「直接体験」のもつ力を、改めて強く思った時間となりました。

会の終わりに、1年生の代表の児童が、お礼の言葉を述べる場面がありました。緊張した面持ちで全校の前に立った1年生。その表情や様子を見て、2年生の児童が、大きな声で「がんばって!」と声をかけました。思わず出たその一言に、駒っ子のやさしさを感じ、心の中がふわっとあたたかくなりました。

子どもたちは、人のやさしさにふれることで、やさしくなります。逆に、自分がつらかったことを思い出して、人にやさしくできるようにもなります。嬉しかったこと、悲しかったこと、様々な経験、様々な人との関わりを通して、やさしさは育っていきます。

社会情動的コンピテンシーの一つでもある「共感性」。人の気持ちを考えて行動できるとか、嬉しそうな人を見ると、自分も嬉しくなるとか、逆に、悲しんでいる人を見ると、自分も悲しくなるとか、そういった部分です。横浜市学力・学習状況調査には、生活意識調査の中に、こうした共感性について問う設問があります。駒岡小全体の令和4年度の結果を見ると、全ての設問で、この共感性が横浜市の平均値を上回っていました。今後も、学校教育目標にも掲げる「やさしさ」を、全ての駒っ子に育んでいけるように、人との関わりを大切にした学習を積み重ねていきたいと思います。

子どもたちの根っこは家庭です。その根っこを支えているのは地域です。子どもたちには、太く長い根っこが必要ですし、しっかりと根をはれる豊かな土壌も必要です。家の人とのあたたかいやりとりが根を太くし、地域の方との日常的な関わりが、肥沃な土壌をつくります。学校は、そこに気持ちのよい風を吹かせながら、対話や協働的な学びを生み出していこうと思います。ご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。